

平成28年度 第1回

四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催 ～有用な技術を育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、有用な民間等の新技術の公共工事等への活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査及び事後評価等を実施するための『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を以下の要領で開催いたします。

記

「平成28年度 第1回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成28年9月6日（火）14：00～16：00

場所：サンポートホール高松 6階 61会議室

【審議事項 概要】

1. 新技術の事後評価（8件）

工事の中で使った結果を基に、技術进行评估します。

今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

<取材でのお願い>

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮りのみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成28年 8月 30日

<問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部 施工企画課長

○ 施工企画課長補佐

いちはら

市原

きのした

木下

みちひろ

道弘

いさお

功

（087-851-8061 内線 3451）

（087-851-8061 内線 3453）

※○：主たる問い合わせ先

～審議技術の概要～

＜事後評価＞

『TB工法(タッチボンド工法)(KK-070004-V)』

TB工法はワンタッチジョイントと高弾性接着剤の接合で耐震性能・コスト縮減・施工性向上を実現した。カルバートの外から充填を行う注入工法と中から充填を行うコーキング工法がある。従来はPC鋼材連結と可とう継手、ゴムリングによる嵌合継手で耐震構造としていた。

『高炉徐冷スラグ骨材を100%使用したコンクリート二次製品(KK-110041-A)』

本技術はリサイクル骨材である高炉徐冷スラグ骨材100%使用した技術で、従来技術は天然骨材を使用していた。本技術の活用により、Co2排出量の低減、アルカリシリカ反応を起こさない安定な骨材の使用により、省資源化に期待できる。

『エンドレンマット リブ型(KK-130027-A)』

本技術は、高密度ポリエチレン製のリブ型構造体を、透水フィルター(不織布)でくるんだ板状排水材である。従来は、碎石による排水層が設けられていたが、本技術の活用により、碎石30cm厚さ相当以上の排水能力を持つ排水層を経済的に設けることができる。

『スチール・ボール・キャリア(SBC)工法(CB-110009-A)』

本技術は、コンクリート二次製品を移動敷設する技術であり、従来はクレーンによる直接敷設で対応していたが、狭窄な市街地や高架下等制約がある現場に於いては困難であった。しかし新技術では鋼球を使用し製品の移動をする事で、制約条件下でも敷設施工が可能になった。

『土留部材引抜同時充填注入工法(SK-080012-V)』

本技術は、新しい発想で仮設撤去による地盤変位を高度に抑える技術です。従来は、仮設撤去による地盤変位が強く懸念される為、地中残置などで対応していた。本技術の活用により、仮設撤去回収が安全にでき事業損失防止にも繋がる。

『FRP,DRAIN(FRP排水柵)(CB-100064-A)』

本技術は、橋梁用排水柵について上下分離型構造とし床版埋設部の材質にFRPを使用する技術であり、従来は一体型鋳物で対応していた。上下分離による高さ調整の可変化で施工性が向上し、FRP採用により軽量化し施工安全性が改善、塩害に対し耐久性が高まる技術である。

『もやいドレーン(CB-080007-V)』

本製品は、立体網状体でありながら従来構造(ヘチマ構造状)とは異なり、通水方向にスパイラルパイプ状の空洞部を配列した排水材であり、その独自の構造により耐圧強度と集水・排水性を向上させた製品である。

『レインスルー(QS-070021-V)』

レインスルーは再生PET繊維を使用したFRC(繊維補強コンクリート)製の集水埋設蓋である。高強度で耐久性に優れ腐食の心配もない。透水性アスファルト舗装で上面を覆うことで、側溝蓋を路面に露出させない構造とすることが可能である。

技術の詳細は、登録が完了しているものについては、以下のURLにて確認できます。

<http://www.netis.mlit.go.jp/NetisRev/NewIndex.asp>

平成28年度 第1回四国地方整備局新技術活用評価委員会 議事次第

日時：平成28年 9月 6日（火）14:00～16:00

場所：サンポートホール高松 6階 61会議室

I. 開会

II. 挨拶（企画部長）

III. 委員長選出

IV. 議事

1. 四国地方整備局新技術活用評価委員会運営要領（案）

2. 平成27年度第3回新技術活用評価委員会の報告等

2-1 平成27年度第3回新技術活用評価委員会の報告等

3. 新技術の事後評価

3-1 四国地方整備局で事後評価を行う技術について

3-2 TB（タッチボンド）工法

3-3 高炉徐冷スラグ骨材を100%使用したコンクリート二次製品

3-4 エンドレンマツトリブ型

3-5 スチールボール・キャリー（SBC）工法

3-6 土留部材引抜同時充填注入工法

3-7 FRP, DRAIN（FRP排水柵）

4. 新技術の事後評価（再評価）

4-1 今回事後評価（再評価）を行う技術について

4-2 もやいドレーン

4-3 レインスルー

5. その他

V. 閉会

「四国地方整備局新技術活用評価委員会」 設置趣旨書

1. 設置趣旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS (New Technology Information System, 新技術情報提供システム) を用いて新技術の活用を推進してきたところでありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略：順不同)

(大学 5名)

松島 学	香川大学工学部 教授 (構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)
吉田 秀典	香川大学工学部 教授 (構造工学・地震工学・維持管理工学、地盤工学、土木材料・施工・建設マネジメント)
高木 方隆	高知工科大学システム工学群 教授 (国土情報処理工学)
日向 博文	愛媛大学大学院理工学研究科 教授 (沿岸海洋工学、海岸工学)
渡邊 健	徳島大学大学院理工学研究部 准教授 (コンクリート工学)

(産業界 3名)

- (一社) 日本建設業連合会四国支部 技術委員会 委員長
- (一社) 建設コンサルタンツ協会四国支部 企画部会 部会長
- (一社) 日本埋立浚渫協会四国支部 技術委員会 委員長

(研究機関 2名)

- 国土研究開発法人 土木研究所 材料資源研究グループ長
- 国土研究開発法人 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 特別研究主幹

(整備局 8名)

- 四国地方整備局 企画部長 外7名